

8月11日第2回井土プチマルシェ出店

8月11日、きらきら発電として仙台市若林区の井土プチマルシェにブースを出して参加しました。井土浜はきらきら発電の第1号機を建設し、わたしたちの運動の出発点となった町です。しかしこの町は震災の復旧・復興から取り残された地域で、今も町のにぎわいをどう取り戻すか、住民も仙台市も模索が続いています。きらきら発電として「井土浜にサンアイス広場を」構想を提案し、県のエコタン形成補助事業の認可も受けて、7月から仙台市と町内役員も一緒に「協議会」を立ち上げて、その検討に入りました。



井土プチマルシェは住民と外部諸団体が協力して、みんなが集い励まし合う企画で



す。子どもの遊び広場、地元の夏野菜販売、ベンチ作り屋台、押し花屋台、語らいの場、焼きそばやかき氷サービスなどブースが並びました。特に、ベンチ作り屋台では、世界的に活躍するアーティストの川俣正の企画で、その指導を受けながら小ベンチを自作し持ち帰るといった内容で大盛況でした。

きらきらブースはいつもの人力発電を展示。「サンアイス構想」にからめ、太陽光発電で卓上製氷機を動かして氷を作るデモを行い、氷を口にして「太陽の味」を感じてもらいました。炎天下、協力頂いた皆様、大変お疲れ様でした。なお、9月18日午後専門家を招いての「サンアイス構想」の学習会を企画しました。可能な方はご参加下さい。(報告：水戸部)

環境日本一を目指す仙台市民集会V

「食と農」をテーマに8月27日開催、30名が参加

始めに宮城県農政部農業政策室の北奥真一室長が「宮城県みやぎの食料システム戦略推進ビジョンについて」をテーマに基調報告。「みどりの食料システム戦略」「宮城県を取り巻く状況」「宮城県の食料システム戦略推進ビジョン」「取組事例」の4項目が報告されました。地球温暖化対策への対応を考えた環境負荷低減の取り組みに心が惹かれました。また農業の持続性をめざす支援を継続したいとの言葉が印象的でした。次に生活協同組合あいコープみやぎが「事例紹介」として「食と農の取り組み」を報告。合成洗剤を使わない取り組みで出発し、有機生産物の販売を柱に、今は脱プラスチック・農薬削減・地産地消に取り組んでいる。また外国でのプランテーション農場の農薬による健康被害の拡大に反対し、バナナ生産者との交流も行っているとの報告でした。

日本農業の行く末が案じられる今、安心安全な食と自給率の向上をめざすにはどうすべきか、困難ばかりが見えるけれど、子供たちの未来をいづらかでも明るくするために、「家族小規模農業」という日本の特徴にあった取り組みを国や自治体と一緒に支えていくことが重要ではと、いろいろ考えさせられました。仙台市に対しては、もっと産直市場を増やしてほしい、食糧残渣をゴミ収集車で回収し京都市のようなバイオマス発電を実現してほしいと希望します。 報告＝広幡

きらきら発電・市民共同
発電所ニュース

2023年9月105号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/
hirohata3888@outlook.jp